

「憲法記念日のつどい」

映画上映

日時:2010年5月3日(月・祝)

場所:鎌倉市生涯学習センターホール

第一部 10:00開場 10:30開演 入場料:500円

・映画上映「子供の情景」(81分)

2007年イラン映画

監督:ハナ・マフマルバフ



映画の舞台はアフガニスタンのバーミアン。主人公は洞窟で暮らす6才の少女バクタイ。字が読めないことをばかにされ学校に行こうと決意して出かけるが、途中で少年たちの暴力による邪魔が入る。「子供たちの暴力を描くことで、子供は大人のまねをして育つことを、大人が忘れていたことを伝えたかった」と監督は言う。撮影開始当時18才の女性監督。父はイラン映画の巨匠。

第二部 13:00開場 13:30開演 入場料:500円

・映画上映「バオバブの記憶」(102分)

2009年日本映画

監督:本橋成一



西アフリカにある、セネガルの村で樹齢1000年以上にも及ぶ巨大なバオバブの木とともに生きる人々の営みを描

いた映画。人と自然が共生する姿を通じて、人類のありようについて静かに問いかけてくる。

本橋監督は、炭鉱やチェルノブイリ原発事故被災地に生きる人々を写すなど、写真家としても著名な方です。



・本橋監督のトーク(予定15:20~) 映画のあと1時間ほどお話を聞くことができます。

チケット取り扱い..... 4月2日(金)販売開始 (いずれも前売りのみ)

◎島森書店鎌倉店(0467-22-0266)

◎ピストログレ(0467-25-2030)

◎島森書店大船店(0467-46-3841)

◎松林堂(0467-22-0846)

◎たらば書房(0467-22-2492)

◎鎌倉市文化推進課(0467-23-3000)内線2541

主催:鎌倉平和推進実行委員会・鎌倉市

お問い合わせ:鎌倉市文化推進課 TEL0467-23-3000

## <映画監督プロフィール>

### 第一部：「子供の情景」監督

ハナ・マフマルバフ Director:Hana Makhmalbaf

1988年9月3日、イランのテヘランに生まれる。

7歳のとき、父モフセン・マフマルバフの監督作品である『パンと植木鉢』に出演。小学2年を終えて後、8歳で、型にはまった学校教育に別れを告げ、父が設立したマフマルバフ・フィルム・スクールハウスで、姉サミラ、兄メイサムらと一緒に学びはじめる。8歳で撮影した初めてのビデオ短編『おばさんが病気になった日』で、9歳にしてロカルノ映画祭に参加。この短編は2002年9月に日本でも公開された（父の中編『アフガン・アルファベット』と同時上映）。ハナは、マフマルバフ・フィルム・スクールハウスで、映画や基礎的な教養を学ぶとともに、家族の映画撮影現場でも経験を積んだ。2003年、姉サミラの『午後の五時』（カンヌ映画祭審査員賞）のメイキングでありながら、アフガニスタンの状況を鮮やかに描き出した長編ドキュメンタリー『ハナのアフガンノート』を、ベネチア国際映画祭コンペティション部門に出品。世界3大映画祭コンペ出品の世界最年少記録となつて、話題を呼ぶ。惜しくもベネチアでは受賞にいたらなかったが、同年の東京フィルメックス映画祭では、見事、審査員特別賞を受賞した。

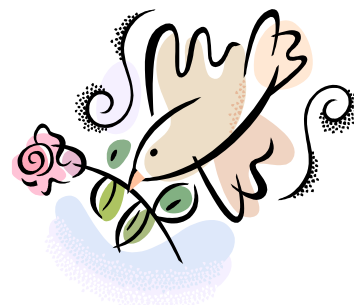
その後も家族の映画の現場に参加しながら、2006年、18歳の時に本作『子供の情景』の撮影をアフガニスタンで開始。3つの季節にわたる長期の撮影を経て、2007年、19歳で完成。歴史あるスペインのサンセバスチャン映画祭で審査員賞の栄誉に輝き、ベルリン映画祭でも2つの賞を獲得。世界各国の映画祭、ならびに映画賞で賞賛を浴びた。

<監督作品> \*欧文は英語題

1997 おばさんが病気になった日 THE DAY MY AUNT WAS ILL\*短編ビデオ作品

2003 ハナのアフガンノート JOY OF MADNESS\*ドキュメンタリー

2007 子供の情景 BUDDHA COLLAPED OUT OF SHAME



### 第二部：「バオバブの記憶」監督

本橋成一（写真家・映画監督）

東京都出身。

1963年自由学園卒業。

九州・北海道の炭鉱の人々を撮り始め、その作品「炭鉱（ヤマ）」で、1968年第5回太陽賞受賞。以後、サーカス、上野駅、築地魚河岸、大衆芸能など、市井の人々の生きざまに惹かれ写真に撮り続ける。

1991年からチェルノブイリ原発とその被災地ベラルーシに通い始め、汚染地域で暮らす人々を撮影。

1995年、「無限抱擁」で日本写真協会年度賞、写真の会賞を受賞。

1998年、写真展「ナージャの村」で第17回土門拳賞受賞。

同じく汚染地に暮らす村人をテーマにしたドキュメンタリー映画「ナージャの村」を初監督。

ベルリン国際映画祭に招待されるなど、国内外で高い評価を得る。

2002年、二作目映画「アレクセイと泉」で第52回ベルリン国際映画祭にてベルリナー新聞賞及び国際シネクラブ賞受賞。

その他、第12回サンクトペテルブルグ映画祭でグランプリなど受賞多数。

2002年、雑誌の連載で開戦前のイラク国内を旅する。

翌年「イラクの小さな橋を渡って」（共著）を緊急刊行。

2003年 毎日新聞にて“生命の旋律”を一年間連載し、翌年、写真集「生命の旋律～本橋成一が撮る人間の生き様集～」を刊行。

2006年、歌と三線一本で流浪の人生を送ってきた石垣島のナミイおばあを描いた映画「ナミイと唄えば」を公開。

2007年、ダムに沈んだ岐阜県徳山村に最後まで住み続けた村人たちの暮らしを15年追った映画「水になった村」を初プロデュース。

2009年3月公開のドキュメンタリー映画「バオバブの記憶」は長年の想いが結実した作品。

## …鎌倉平和推進実行委員会…

昭和33年（1958年）8月、鎌倉市は平和都市宣言を行いました。この宣言は市民有志が市議会議長に請願し、市議会が全会一致で採択し、市が宣言したものです。

平成7年、市民による実行委員会により戦後50周年記念事業が行われました。その翌年から公募による市民で構成された「鎌倉平和推進実行委員会」が発足。平和・人権などをテーマとした平和推進事業を企画し、市と協働で実施しています。これまでに、講演会やコンサート、映画上映会、平和バスツアーなどを催してまいりました。また、平成12年度から、申し出のあった市内の小・中学校へ「子どもたちと一緒に平和について考える事業」を出前するお手伝いもしています。これからも、一人でも多くの市民の皆さんに参加していただける企画を心がけていきます。